

要介護者に安心を

電子版なら他の地域版も読める
山陽新聞デジタル
<http://www.sanyonews.jp>

身近なニュース
会合、催しなど
お知らせください

介護サービス業のオール・ケアだけでなく、他施設の職員にも参加を呼び掛け。共に技能を高めることで要介護者が安心して自宅で暮らせる地域づくりを目指す。

(正本和臣)

介護サービス業のオール・ケアが運営する「訪問看護ステーション ママック」(東高崎)は、看護師やリハビリスタッフ、介護ヘルパーらを対象に、肺、気管など呼吸器のケアに関する勉強会を開

訪問看護のママック 呼吸器ケア勉強会

勉強会には看護師の西坂画。人工呼吸器が必要な陽子さん(49)を中心に企画。重度の要介護者には、生



ママックのベテラン理学療法士から人工呼吸器を装着した人の呼吸介助について教わる参加者

看護師やヘルパー 他施設にも参加訴え 技能アップ狙い

命の危険に直結する事、適切な対応ができず、状態が起る可能性もある不安があった。そのため、緊急時の対応、後の仕事に役立ちそうと話す。

バイスを適切に行える。今年勉強会は11月17日が最終回。誤嚥性肺炎の予防につながる痰の出し方などについて学ぶ予定。ママックは市内と倉敷市児島地区の約230人に訪問看護を行っている。このうち約10人が人工呼吸器を必要とする要介護者。西坂画さんは「自宅で介護を受ける人は玉野でも増加傾向。呼吸器ケアの技術は急激に進歩しており、要介護者本人や家族のニーズと看護師らが持つ能力の間にギャップが生じている面もある。勉強会でその穴埋めを図りたい」と話している。

人工呼吸器の使い方などをテーマにした10月20日の勉強会には、ママック、市内の訪問介護事業者、岡山市の病院などに勤める15人が参加。メーカーの担当者が操作手順や警報音の意味を教わった後、ベテランの理学療法士から人工呼吸器を装着した人の呼吸介助などについて説明を受けた。

参加したママックの作業療法士坂本晴貴さん(23)は「人工呼吸器を装着した人のリハビリ中に異変が起きたと